



第6学年 社会科学習指導案

亀山市立亀山西小学校

1 題材名 「明和の百姓一揆」(全1時間)

2 目標

- ・農民が藩の支配(年貢加増等)に反対して自ら立ち上がり、その政策を撤回させた「明和の百姓一揆」についての概要をつかむ。
- ・武士による政治行政に強烈に反対して死んでも実行させないことを望んだ農民の行動について考えることができる。

3 指導について

「明和の百姓一揆」は、江戸時代に亀山領内の農民たちが藩の年貢加増に反対して、武士や町人たちに自分たちの主張を訴えた一揆である。一揆で要望した内容は通^りが、代表者が処刑されるという百姓たちが命がけで要望をかなえた一揆である。

亀山西小学校は、その敷地がかつて亀山城の一部であったことから、総合的な学習の時間などで亀山城やその周辺の町村の歴史について学習する機会を持っている。また、この一揆に関係する場所は子どもたちが普段生活している校区と重なるため、社会科で学ぶ歴史が今の自分たちとつながっていると感じ、当時の人々のくらしや思いをより理解できるのではないかと考える。

この百姓一揆についての文書が亀山市歴史博物館に所蔵されており、実物資料を見たり学芸員の解説を聞いたりすることもできるので、教材化した。

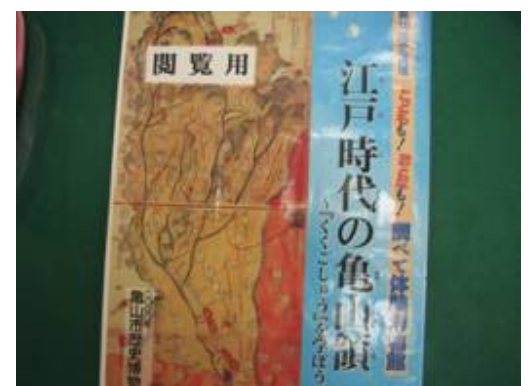
授業前研修会では、勢州亀山御領分八拾参ヶ村百姓騒動記(館蔵牧野家文書)を基に

- ・一揆の原因
- ・農民の格好
- ・一揆の過程
- ・結果

についてレクチャーした。

また、下記の参考文献を紹介した。

- ・「明和五^{つちのえ}五^{ねのとし}子^{さうどう}歳^{じつき}騒動実記」(館蔵村井家文書)
- ・亀山市歴史博物館歴史資料叢書 第九集
「明和五年亀山領内八十三ヶ村騒動記録集」
(亀山市歴史博物館発行)
- ・第18回企画展
こどもも!おとなも!調べて体験博物館
「江戸時代の亀山領
～『くくごしゅう』を学ぼう～」
(亀山市歴史博物館発行)



9月8日 領内に廻状が回る。

- ・期日: 13日に広瀬野に集合
- ・参加者: 15~60才の男子
- ・格好: 田笠、破蓑、竹やり、竹ぼら、生笹の葉の軍配
- ・持ち物: ナタ、鎌、椀、青竹(〇〇村と書く)、3~4日分の食事
- ※ 参加しない村にはおしかけます。
- ※ 村役人にとめられても必ず来ること。



09/13 四ッ時(10時) 広瀬野天王山の西に篝火

夜 83ヶ村6800名余りの農民が集合
大庄屋と各村の庄屋が鎮静に行く
農民らが大庄屋らに取りかかる

09/14 丑の刻(午前2時ころ) 西富田村へ

和泉川原で休むものと庄屋孫四郎の水車壊すものに分かれる。
合流し、孫四郎の自家・土蔵・物置小屋を壊す。
和泉橋西の橋 馬場彦太夫・生田弥兵衛らに川原の石を投げる。
庄屋八左衛門宅にて炊き出し
→小田村→海善寺→川合村(休憩)→和田村縄手→八野村
八野村庄屋伊藤才兵衛宅の自家・蔵・小家・雪隠を壊す。
隣家に預けた諸道具も壊す。

→鈴鹿川原→井尻村の前の砂川原で昼食。2通の願書を読み上げる。
→和田村→東林野(今の本町)
東林野の茶屋平八宅打ち壊し
茶屋町の猿屋辺りにいた奉行らを追い返す。

→三本松→羽若村
総目付庄屋太郎右衛門宅を引き倒し・蔵・小家を壊す。
弟善六の家に諸道具を預けたため、善六の家も壊す。

申の刻(午後3時~5時ころ) →羽若村西草野 炊き出し

→羽若堤→三本松→江戸口門→大手前
さめ屋源兵衛家・蔵・質蔵を壊し、質物を道へ投げ捨てた。
(池の側から西町まで2,3丁が衣類雑具の山となった)
魚屋惣兵衛宅打ち壊し
大庄屋会所座敷打ち破る
阿野田川原 暫時休憩、酒屋十郎兵衛へ書状を書く。

夜中 関川原(阿野田川原と同じか?)相談

09/15 石川幸之進の使者が阿野田川原へ来て、願書を出すように言った。


「願いを聞き入れる。大手口へ詰めるな。家老・年寄りに願書を出すように。」
大目付2人へ百姓83人(1村1人ずつ)が出来坊坂で願書を渡した。

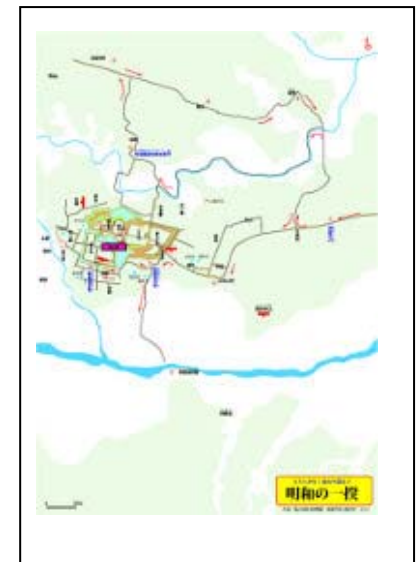
9つ時(12時頃)出来坊坂で願書の請書を受け取り、阿野田川原へ戻った。

8つ半(15時頃)広瀬野へ戻った。

09/16 申の刻(16時頃)広瀬野へ大目付近藤伊太夫・馬場彦太夫が来て「明日、江戸へ注進するので、この場所を去るように。」と返答した。

4 指導過程（45分）

学習活動	指導上の留意点	資料
<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農民、町人、武士それぞれのくらしを振り返る。 <p>2 本時の学習課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀山で一揆が起こったことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時には、農民、町人、武士それぞれに厳しい決まりがあったことを押さえておく。 ・農民が藩に対して、自分たちの要求を伝える最終手段には、「逃散」と「一揆」があったことを知らせる。 	
<p>明和の百姓一揆について知り、一揆を起こした農民たちの思いを考えよう。</p>		
<p>3 「明和の百姓一揆」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ一揆が起こったか？ ・何を要望したか？ ・いつ・どこで・だれが一揆に参加したか？  <ul style="list-style-type: none"> ・どのように一揆を行ったか？ ・一揆をおこなったことでどのような結果になったか？ <p>4 一揆を起こしてまで伝えなかった農民の行動を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・亀山藩は86の村があり、現在の鈴鹿市・四日市市の一部も含み、現在の亀山市よりも範囲が広がったことにふれておく。 ・甲州川普請、朝鮮通信使接待等により藩の財政がひっ迫、そのために永荒田畑の検地が行われ、年貢を取り立てられることになり、農民の生活が苦しくなったことが原因で、飢饉が原因でないことを押さえる。 ・百姓の7ヶ条+1ヶ条の要求の内容を伝える。 ・明和の百姓一揆の廻状の現代語版を項目ごとに提示していく。 ・集まったときの服装が限定されているのは、自分たちが百姓であることをアピールするためだったことを考えさせる。 ・地図で一揆のルートをたどりながら、いつ、どこで、何をしたかを読み取らせる。 ・ポイントとなる地点では現在の写真も併用して、ルートをよりイメージしやすくさせる。 ・要求は通ったが、代表者が処刑されたことを伝え、命がけで要求を実現させたことに触れる。 ・自分の思ったことを書き、その後になぜそう思ったかの理由を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊勢三重、河曲、鈴鹿、安芸四郡之図」 ・勢州亀山御領分八十三ヶ村百姓騒動記(レプリカ) ・「明和五戊子歳騒動実記」 ・廻状の現代語版 ・百姓の格好のハッパ ・「明和一揆過程図近世城下」 ・通過地点の現在の写真



結果

- ・百姓の7ヶ条+1ヶ条の要求は、かなえられた
- ・大庄屋全員と改庄屋8人は、代官大辻又七郎宅へ追込(監禁)
- ・さめ屋源兵衛、魚屋惣兵衛、薬屋平八も追込
- ・百姓の代表は、3名が鈴鹿川原で斬首、4名は永牢を申しつけられた(内1人は牢内で病死)



準備物

- ・パソコン
- ・大型テレビまたは実物投影機
- ・長机
- ・展示台2台
- ・ワークシート<学習の振り返り>
- ・『明和五年亀山領内八十三ヶ村騒動』から概要をまとめたもの
- ・パワーポイント「明和の一揆のルートをたどる」
- ・明和五年亀山領内八十三ヶ村騒動記(レプリカ)
- ・明和五戊子歳騒動実記(実物)
- ・百姓の格好のハッパ
- ・「伊勢三重、河曲、鈴鹿、安芸四郡之図」
- ・「明和一揆過程図近世城下」